

検討した。従来、カンアオイとオトメアオイは、花柱附属突起の長さ、萼筒内壁のひだ絞様を指標形質として区別されている。しかし、これらの形質はかなり変異し、はっきりと種差を指標するほどのものではなかった。両者は、むしろ萼裂片上面の毛にはっきりとした違いを示していた。すなわち、カンアオイの萼裂片上面には、多細胞の短毛が多数みられるが、オトメアオイならびにズソウカンアオイでは、単細胞性の球状の毛がわずかに散在しているのみである。

□Geissler P. & H. Bischler (ed.): **Index Hepaticarum, vol. 10: *Lembidium to Mytilopsis*** 352 pp. 1985. J. Cramer, Braunschweig. DM150. これまで、故 C. E. B. Bonner の Index Hepaticarum vols. 1-9 として、属名の A から L (*Lejeunea*) までと *Plagiochila* が発刊されていたが、vol. 10 以降は国際藓苔類学会 (IAB) のプロジェクトとして、ジュネーブの P. Geissler とパリの H. Bischler が中心となって編集発行することとなった。Bonner の Index とは形式が大幅に変更されている。主要な変更は 1978 ICBN (レニングラード・コード) に基づいて、記録された epithet が illegitimate または invalid な場合には ICBN の条項を各々示してある。また Bonner の Index では type の選定をしている場合が多く、lectotypification とみなされたが、今回からは type の選定は一切行わず、原記載に書かれた通りを再録する形式をとっている (従って lectotypification はない)。従来あった、その type の所在場所の明示もなくなった。今回からは主として東ドイツの R. Grolle、パリの D. Lamy、日本の服部博士やオランダの S. R. Gradstein がデータの提供やチェックに協力しているほか、多数の苔類学者が各属 (91 属) を分担して取りまとめを行っている (日本からは S. Hattori, H. Inoue, Y. Kuwahara が分担をうけもっている)。苔類の命名、分類等に関係する人には不可欠の Index である。 (井上 浩)

□Crum H. A.: **North American Flora, ser. II, Part 11, Sphagnopsida • Sphagnaceae** 180 pp. 1984. New York Botanical Garden. ¥10,000. NY が 1954 年から始めた North American Flora 第 2 期プロジェクトでは、すでに Fontinalaceae, Hookeriaceae のセン類が取り上げられていたが、今回、ミズゴケ類が総説された。著者の Crum 博士は北アメリカのセン類分類学の第一人者で、ミズゴケ類にも極めて明るい。本書は、メキシコ以北の北アメリカ大陸に産する 51 種のミズゴケ類についての詳細な記載、分布、変異等に関する論議、図説から成っている。文献は北アメリカの種類に直接ないしは間接に関係するものが多数かかげられていて、ミズゴケ類の研究には極めて便利である。日本産の種類に深い関係をもつものも多数あり、日本のミズゴケ類を調べる上で、見落せない文献である。 (井上 浩)